

月初めの1日にスタートした県議会議員選。東日本の大震災、巨大津波の被害、一向に収束の兆しが見えない原発事故のなかでの選挙という「例のないケースの選挙」だ。

東三河の5つの選挙区(定員総数は11人)には合計20人が出馬した。競争率は1.8倍。「例のない選挙」は激戦である。

出馬している各氏の新旧別は現職7人、新人12人、元職1人。新人が圧倒的多数。「例のない選挙」は世代交代の選挙とも言える。

# 大震災と統一地方選

2011年4月

大震災の中での選挙は、既存政党に地域政党が挑むという特長もある。大村秀章知事が率いる地域政党「日本一愛知の会」の公認候補が東三河でも4人が顔をそろえた。大村知事は県議会の過半数を手中にして、大村県政の今後を安定的なものにできるのか。注目点でもある。

選挙戦は残すところ「あと2日」。ポルテージは最高潮に上がってきた。ゴールを目指して疾走し続ける各候補者をカメラで追った。(本多亮)

# 「あと2日」ゴールへ疾走



キリリとしたハチマキ姿で気合いを入れて  
街宣活動を繰り広げる渡会克明候補